

**臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同
出生・発達分科会（第26期・第10回）
議事要旨**

1. 日 時 令和6年9月26日（木）10:00～11:00

2. 会 場 オンライン会議（zoom）

3. 出席者（五十音順）

高橋尚人、（以上、会員）

米村滋人、石崎優子、島 蘭 進、柘植あづみ、船曳康子、水口 雅、水野紀子（以上、
連携会員）

4. 議事録作成者 高橋 尚人

5. 議事概要

米村滋人連携会員より、「子どもの医療行為に関する「同意」の法的問題」と題して、「法学」「法」の説明から始めて、「医療ネグレクトに関する問題」「医療行為同意の基礎的分析」「子どもの医療の多様性と問題解決」の項目別に歴史的な経緯や現状について、問題点を中心にお話しいただいた。特に、医療ネグレクト対応における児童相談所の位置付けについて現在の実務に誤解があること、またインフォームド・コンセントにおける「代諾」についても一般的によく理解されていない面があることの解説があった。また、子どもの医療において親権者が積極的行為をしない場合必ずしも親権制限はしなくても医療は実施可能であること、ただし積極的に医療拒否をする場合には親権制限が必要となる可能性があることが説明された。この分科会での今後の議論に対して法的な側面から大変重要な内容を含む発表であった。

以上